

1 結核・感染症サーベイランス事業におけるウイルス検査

【微生物科】

結核・感染症事業の22対象疾患について県内10検査定点から採取した検体についてウイルス分離した。

検体受入れ状況を表1に示した。検体数の多い疾患では感染性胃腸炎194件、無菌性髄膜炎136件、インフルエンザ様疾患119件、手足口病110件、流行性耳下腺炎91件などである。

分離状況は表2に示した。779名、936検体中ウイルス分離陽性となったのは205名(26.3%)、209検体(22.3%)であった。ウイルスの種類は17種類であった。

以下本年度の特徴的なものについて述べる。

1. 手足口病は7年ぶりの大流行で主原因ウイルスは、コクサッキーA16型ウイルスで分離率は41

／110(37.2%)であった。エンテロ71型ウイルスも東部地区を中心に7／110(6.4%)検出された。

2. 流行性耳下腺炎は小流行がみられムンプスウイルスが25.2%分離された。

3. 感染性胃腸炎からはロタウイルスが最も多く検出されアデノ2型、エコー7型ウイルスも検出された。

4. インフルエンザ様疾患からはインフルエンザAソ連型ウイルス、アデノ1型、エコー7型ウイルスが分離された。

5. 無菌性髄膜炎からはエコー7型ウイルスが27／136(19.9%)で最も多くムンプスウイルスも少数ながら関与していた。

表1 疾病別検体採取状況 (1995年度)

1995.4~1996.3

臨床診断名 (疑いを含む)	1995年										1996年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
麻疹様疾患				1	14	9	8	11	5	2	2	1	53	
				1	12	9	5	10	4	2	2	1	46	
風疹	1												1	
	1												1	
水痘					1				2	2			5	
					1				2	2			2	
流行性耳下腺炎	9	10	10	8	17	5	8	7	1	4	8	4	91	
	8	7	8	8	15	5	8	7	1	4	8	4	83	
百日咳様疾患	1		2	1	1							1	6	
	1		2	1	1							1	6	
溶連菌感染症														
異型肺炎														
感染性胃腸炎	24	28	11	13	6	5	10	12	18	17	17	33	194	
	23	21	7	6	4	4	9	10	16	13	12	28	153	
乳児嘔吐下痢症	9	7	4					4	17	3	10	35	89	
	5	4	3					3	12	3	6	23	59	
手足口病	21	28	35	18		5	2	1					110	
	21	27	35	18		5	2	1					109	
伝染病紅斑														
突発性発疹	2		2			3		1					8	
	1		1			3		1					6	
ヘルパンギーナ	2	4	10	22	20	7	4	3	1			1	74	
	2	4	10	22	20	7	4	3	1			1	74	
インフルエンザ様疾患		1		5	1			25(10)	68(10)	19			119(20)	
		1		4	1			25(10)	67(10)	18			116(20)	
MCLS (川崎病)	3	1	3	9		4	2	1		2	2		27	
	2	1	2	5		3	2	1		2	2		20	
咽頭結膜熱	1		1	3	4				1	1	1	1	13	
	1		1	3	3				1	1	1	1	12	
流行性角結膜炎					1				2				3	
					1				2				3	
急性出血性結膜炎										1			1	
										1			1	
無菌性髄膜炎	16	8	14	14	18	20	20	5	8	3	6	4	136	
	7	5	7	10	12	13	10	2	3	2	4	4	79	
脳・脊髄膜炎														
陰部ヘルペス			1			3					1	1	6	
			1			3					1	1	6	
尖圭コンジローム														
計	89	87	93	94	83	61	54	70(10)	123(10)	54	47	81	936(20)	
	72	70	77	78	70	52	40	63(10)	109(10)	48	36	64	779(20)	

(注) (1)上段は検体数、下段は患者数を示す。

(2)() は集団発生を示す。

表2 疾病別ウイルス分離状況 (1995年度)

1995. 4~1996. 3

臨床診断名 (疑いを含む)	ウイルスの種類																				計										
	ア デ ノ 1 型	ア デ ノ 2 型	ア デ ノ 3 型	ア デ ノ 5 型	エ ン テ ロ 71 型	インフル エンザ A ソ 連 型	エ コ 1 7 型	エ コ 1 9 型	エ コ 1 1 型	エ コ 1 25 型	エ コ 1 30 型	コ ク サ ツ キ 1 A 2 型	コ ク サ ツ キ 1 A 4 型	コ ク サ ツ キ 1 A 5 型	コ ク サ ツ キ 1 A 6 型	コ ク サ ツ キ 1 A 9 型	コ ク サ ツ キ 1 A 16 型	コ ク サ ツ キ 1 B 4 型	コ ク サ ツ キ 1 B 5 型	ヘル ペ ス 1 型		ヘル ペ ス 2 型	ポ リ オ 1 型	ポ リ オ 2 型	ポ リ オ 3 型	ム ン プ ス 型	ロ タ タ 型	C 群 ロ タ タ 型	麻 疹		
	麻疹様疾患							2	2																						
風疹							2	2																							4
水痘																															
流行性耳下腺炎										1																	23	1			25
百日咳様疾患										1																	23	1			25
溶連菌感染症																															
異型肺炎																															
感染症胃腸炎		1					7													1						2	25			36	
乳児嘔吐下痢症		1					6												1						2	25			36		
手足口病		2				1														1							27			31	
伝染性紅斑		2				1														1							27			31	
突発性発疹																															
ヘルパンギーナ			1		1		2									1	1	2													8
インフルエンザ様疾患		1					2									1	1	2													8
MCLS (川崎病)	2					13(7)	1																							16(7)	
咽頭結膜熱	2					13(7)	1																							16(7)	
流行性角結膜炎																															
急性出血性結膜炎																															
無菌性髄膜炎							27	1												1					1	5				35	
脳・脊髄膜炎							24	1												1					1	5				32	
陰部ヘルペス																															
尖圭コンジローム																															
計	2	6	1	1	7	15(7)	40	3	1						1	4	2	2	3	1					3	2	8	5	3	203(7)	
	2	5	1	1	7	15(7)	36	3	1							1	4	2	2	3	1					3	2	8	5	204(7)	

(注) (1)上段は検体数、下段は患者数を示す。

(2) ()は集団発生を示す。